

「全鍍連」 2024年 7月号 巻頭言

全鍍連 理事 神谷 博行 (神谷電化工業(株) 会長)

「仕事を離れて」



現在めっき業は息子に任せて、町会長として地域活動を行っています。活動の一つですが、2町会の子供達が通う小学校で年1回避難所訓練を行っています。小学生に体が外に飛び出すような起震車による震度7の体験・テントの中に煙を充満させた煙体験・1年生から6年生の子供達による消火器を使った初期消火・災害時には消防車が来られないので消火栓から直接ホースを使って消化できるスタンドパイプ消火・ケガを負ったときの止血や包帯、三角巾を使った応急手当・心肺停止の時のAEDを使った応急措置と蘇生措置体験・校庭での薪釜による湯沸かし、アルファ米の炊き出し・体育館、教室へのマットの寝床の区分場所決め・避難者リストの作成などの850人で避難所訓練を行いました。

東京都の公立小中学校では備蓄倉庫があり、食料としてアルファ米・ビスケットは各500人分で1食のみ、水は2ロボトル330本、各学校での各区の避難計画によると約1000人収容の計画ですがあまりにもお粗末です。就寝マット・毛布・カーペットも500人分しかなく合わせてプライバシー保護の間仕切りもありません。能登半島地震では上下水道が切れトイレの汚物を流すことが出来なくなり、道の駅のトイレは洋式トイレが溢れるぐらい汚物がたまっていたそうです。災害時のために簡易トイレや携帯トイレは必ず用意しておく事。ある避難所ではトイレに行くのに寝床の間の通路を確保していなかったためトイレに間に合わず、着替えの下着もなく、周りから臭いといわれ心細い思いをされた方がいたそうです。紙のパンツも用意したほうが良いと思います。東京のマンションに住んでいる方は水洗トイレを2週間使わないように決まっています。今から袋を使った簡易トイレを勉強しておく方が良いと思います。

避難所生活の実態はプライバシーがない、寝る場所を確保するのがやっと、ストレスや疲労が溜まる、体調を崩す、感染リスクがあるなど過酷な避難所生活で精神的・肉体的疲労が原因で亡くなる災害関連死が多くなっています。災害時被害が少ない家庭では、自宅で待機して頂き日頃から1週間分の食料と水の確保・備品の調達などインターネットで(KAOそなえ〜)を見ると色々な事が書いてあります。現在日本全国どこでも地震災害が起きてもおかしくありません、普段から準備がしてあれば、万一の事態が起きて心配しないですみます。最後に能登半島地震で被災された方々の一日も早い復興を祈ります。